

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・井上	写真・後藤
山行番	NO. 1955		
日時	2021年11月13日(土) 晴れ		
山域	御坂・王岳と鍵坂峠中間ピーク吉沢山(1603m)・北尾根		
コース	長泉 6:00-南一色(井上) 6:10-十里木越前岳駐車場(加藤)-精進湖-芦川町鶯宿(おうやど) 8:15-登り口まで軽トラで移動し立沢さんの丸太橋から登山開始-尾股山(・1020m) 10:06-・1247峰-・1372m峰-吉沢山(1603m) 昼食休憩 13:25~13:57 下山開始-鍵掛峠 14:33-出発地 14:33-長泉(満貫・反省会) (片道=約85km)		
標高差	上り 登山口約620m~吉沢山1603m=約983m(累計1100m) 下り 同上		
藪漕度	上り・下り なし		
難易度	非常に困難 レ困難 やや困難 普通 やや易しい 易しい		
最初の「俺の橋」がその後の大冒険を物語っていた			
参加者	後藤、加藤、星、勝又、井上=5名		

(久しぶりに足が揃ったメンバー。御坂山塊に残された北面の一大バリエーションを実行。過去の記録では、いわゆる「キレット」から退却している。今回は、「キレット」から、標高差300mがポイントだった)

(精進湖からR358を下り、芦川村・鶯宿(おうやど)集落手前の鶯宿入沢を少し偵察し、戻り、三角点623.3m付近の古い橋を渡ろうとした。Kが偵察したが中々厳しそう)



古い橋



立沢さん

まずは、道路に平行に流れる芦川を渡り、向こう側の尾根にとりつかなければいけない。当初渡る予定の橋はところどころ穴が開いており、渡れるかどうか怪しいが、とりあえず車を止められる場所で駐車し準備を始めた。

すると、犬を乗せた1台の軽トラックが近づき、おじさんが声をかけてきた。芦川を渡って向こう側の山に登ることを伝えると、予定していた橋は危なくて使えないから100mくらい下ったところ

ろの「俺の橋」を使えばよい、と言ってくれた。5人全員が軽トラの荷台に乗って送ってもらうことになった。走り出すと風がものすごく冷たかった。

川に下りてみると、「俺の橋」は頼りなげな丸木が3本並んでいて、手前は木の太い方が3本並び、奥に行くに従い3本とも細くなっていく。1本くらい逆にすればもう少し安定しそうなものだが、スパイク付き地下足袋のおじさんには関係なくひょいひょいと渡った。登山靴の固い底は丸木になじまず実に不安定。こわごとと両手を広げてバランスを取り、一步一步心をおだやかに心掛けて、決して心を乱さないようになんとか渡った。何という怖い体験。この後に起こる冒険が、すでにここで暗示されていたことを知るのはいくらか後のことだった。



恐怖の丸木橋

おじさんの名前は立沢良直さん。80歳。甲府に自宅を持ち奥さんと住んでいる。山仕事の時は芦川町の家に来るとのこと。私たちが最初にとりつき登ろうとしていた尾股山だが、ここが立沢さんの山なのか、自分の山の木の枝打ちに来たとのこと。

後藤さんの弟子の芦安の清水さんを知っていてご縁を感じた。犬の名前はダイちゃん。おとなしく人なつっこい。いつも山では一人なので、大勢と山に登れることが楽しいということで一緒に登ることになった。

川を渡り、登り始めるといきなりの急登。先頭は立沢さんと犬のダイ。立沢さんは木の枝のダブルストックで、おそらく立沢さんの専用の道だろうと思われる道を登っていく。一応、道になっているのでそれほど苦労はない。ただ壁のように急である。ダイも難なく登っていくが、石を落とす



立沢さんとダイちゃん



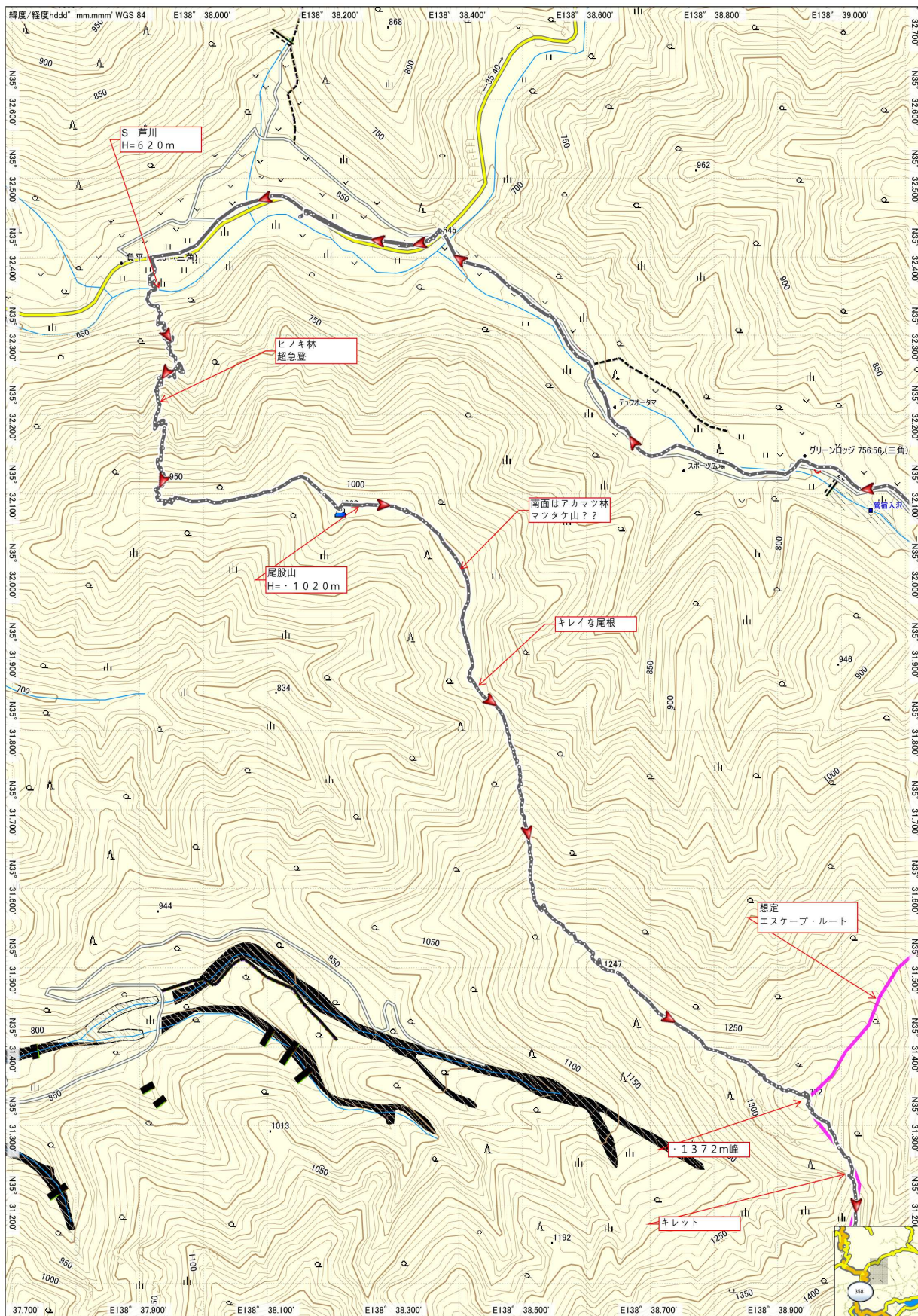
急登



チェーン・アイゼン

ので危なかった。あまりの急な角度のため、後藤さんはチェーン・アイゼンを着けた。(夏山でアイゼンとは?!だが、近年、厳しい沢などでは使用が報告されている。ストックのゴム・カバーなしと同じで「山を傷つける」の意見もある。ただ、何処でも使う訳ではない。使用は初めて。「極めて困難な場所」使用が条件だろう)

その後、立沢さんはいつもの休憩場所なのか木の根元に座り一服している横を通過し、私たちが先行した。立沢さんとダイはこの後、私たちの後ろから登ってきていたが、いつのころからか姿は見えなかったの、引き返したか、仕事に入ったかだろう。



Japan Topo 10M Plus V3
 CamacMap Co. Ltd 2014
 Garmin Corporation 1997-2014

2021/11/14 9:44:50

GARMIN

2018/01/01

（立沢さんは、この山に中学時代から来ていた。この急傾斜地に植林をしたという。6貫の苗木を背負った。北面で成長が遅い。伐採するまで80年かかる。現在、40年だから、あと40年という。現在、80歳では存命中の伐採は難しいかも）

（ヒノキの植林地は、根っこの部分が曲がったのが多い。昔は、静岡の「下駄屋」が、曲がった部分を欲しがり、買いに来たとそうだ）



厳しい山



尾俣山（2万5千圓は、尾股山表記）



キレット

スタートの芦川は標高 620m。尾股山 1020m 10:06 着。(2万5千円で尾股山の山名表示板は、何故か、「尾俣山」になっていた。この辺りの南面は、アカマツが多かった。林床がキレイなので、マツタケ山?)

標高差 400m を軽トラでの移動や丸木橋渡りも含めて 1 時間 51 分。ここからは尾根はゆるやかで、左手の紅葉を楽しんだ。970m まで下り、・1247m まで登る。岩場あり。・1372m まで +125m。足元の土に霜柱が見える。

(1372m を下ると「キレット」と呼ばれる所に達した。大きなものでなく通過は問題なかった。ある記録では、この上の急斜面に入ると退路がないと、ここで撤退している)

そして 1305m まで下る。ここから 1603m の吉沢山まで 295m 登る。まあ、道らしきものはない。赤テープもなし。ひたすら急登を我慢して登る。吉沢山手前で、岩場がありザイルを 2 か所設置した。加藤さんが先頭でルートを見つけ、ザイルを木に結び、途中に何か所かのこぶを作りすべり止めとする。順番待ちの間もバランスを崩すと真逆さまに落ちるので気が抜けない。最後に私がザイルを回収して登った。

王岳と鍵掛峠の間にある吉沢山の稜線に上がると、山梨側の雪をかぶった富士山のお目見えだ。雲のない青空にふもとの湖までバッチリ見える。大パノラマだ。ここでちょっと遅い昼ごはん休憩。岩場の緊張とアップダウンで体力は消耗していた。

メンバー全員で難局を乗り越えた一体感が気持ちよい。心細い丸木橋に始まり、ザイルを使っての岩場の通過など、かなりの冒険をしてきたことが嘘のように思える、おだやかな富士山の景色だ。座った場所に一輪だけトリカブトが咲いていた。

下山開始。右手に富士山を眺めながら安全な一般道を歩く。時折、上りがあると太ももの疲れを感じ、脚が重い。鍵掛峠で左に折れて下る。落ち葉が積もり、落ち葉ラッセルをして歩く。落ち葉の下にある岩は見えないので、時折滑る。

日が暮れるまでに下山を終わりたい。徐々に暗くなるが、なんとか日暮れ前までには里に下りた。たまたま通った農家のトラックに、先行する後藤さんと加藤さんは荷台に乗せてもらい、車を停めているところまで行って車を取り、遅れている 3 人を回収に来てくれた。

2 万 5 千円の単純なアップダウンの累計では標高差は 1100m だが、勝又さんのスマホアプリでは細かい登りも拾うのだと思うが累計 1200m だったと長泉に到着後の反省会で聞いた。しんどいはずだ。この記録を書いている 3 日後の今もふくらはぎの筋肉痛が残っている。

以上

その他の記述 (後藤)

1. 文中、() 部分は、後藤が記録。
2. 全員ヘルメットを持参したが、使用しなかったのは、L のミス。下山時にも必要だった。
3. 立沢さんのアドレスをネットで調べたら、住所・電話番号が出ていた。
4. グリーンロッジ下で、農作業を終えた夫婦の軽トラに乗せて貰った。野菜の収穫に行ってきたようだ。狭い村なので立沢さんの事は知っていた。「そう言えば、朝、軽トラックが置いてあった」と話していた。
5. 下山後、2~3 日、疲労感・倦怠感が酷かった。





